

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	
施 設 名	横浜みなとみらいホール	
助成対象活動名	人材養成事業・普及啓発事業	
内定額（総額）	3,973	(千円)
公 演 事 業		(千円)
人材養成事業	1,715	(千円)
普及啓発事業	2,258	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ホールオルガニスト・インターン制度	2018年4月～2019年3月	第17期 ホールオルガニスト・インターン生：山司 恵莉子 指導員：ホールオルガニスト三浦はつみ ほか	目標値	1
		大ホールほか		実績値	1
2	金の卵見つけました	2018年6月17日	出演：オーディション合格者、NHK交響楽団メンバーを中心とする「ハマのJACK オーケストラ」	目標値	150
		小ホール		実績値	493
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	151
				実績値	494

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	横浜みなとみらいホール アウトリーチ事業	2019年1月28日 ～2月25日	日下小学校(ゴスペル) 講師:河原厚子 港北小学校(作詞・作曲) 講師:杉野真理子、 二つ橋高等特別支援学校(邦楽器「箏」) 講師:米澤浩、熊沢栄利子	目標値	1,000
		市内小学校		実績値	724
2	みなとみらいSuper Big Band育成事業	2018年4月～2019年3月	メンバー:中高生38名 講師:青木タイセイ(熱帯JAZZ楽団トロン ボーン奏者)、具理然(Lowland Jazz トラ ンペット奏者)	目標値	1,500
		リハーサル室・大ホール		実績値	3,318
3	横浜みなとみらいホール 社会包摂事業	2018年7月7日、2019年3 月2日ほか	7/7「音と光の動物園」 指導:東京藝大COI拠点スタッフ、 アーツスペシャル合奏団、ヤマハ ドラムサークル	目標値	50
		リハーサル室・大ホール ほか		実績値	392
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,550
				実績値	4,434

## 【妥当性】

### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

横浜みなとみらいホールは、開港以来150年余の新たなものを受け入れてきた歴史を持つ「横浜」の音楽専門ホールとして、370万の市民の多様なニーズに応え、音楽文化を通じた地域の魅力向上と賑わいの創出に努めています。

今年度は、人材養成事業の「ホールオルガニスト・インターン制度」では、開館以来、鑑賞事業でも普及啓発事業でも活用されている「ホールのシンボル」のパイプオルガン“ルーシー”と地域のオルガン事業を、将来にわたって支える人材を発掘・育成する場として機能しました。また、音楽文化を支える次世代育成の観点から、コンチェルトソリストオーディション企画の「金の卵を見つけました」を開催し、才能ある青少年に優れた音響特性のホールという会場と一流の奏者との共演という最高品質な実践と研鑽の機会を提供しました。

普及啓発事業として実施した、「横浜みなとみらいホール アウトリーチ事業」では、子どもたちの日常の場である学校で、プロのアーティストに触れる環境を作りだしました。「みなとみらいSuper Big Band 育成事業」では、日本の「ジャズのふるさと」と自認する横浜という地域で、中高生をメンバーとした継続的に活動するビッグバンドを組織することで、将来の音楽文化の裾野を多面的に拡大できました。「横浜みなとみらいホール 社会包摂事業」では、これまでホールでの取り組みが普及啓発的な観点に限られていた企画を、外部の専門組織や学校と連携・協働し、社会包摂という観点で組みなおすことで、より幅広い視点で実施することができています。

なお、各事業において経費支出の節減に努めたことなどにより支出総額が減少しましたが、実施公演数等は当初に企画した通りの内容・水準に沿ったものとなりました。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

最大の政令指定都市の中の、さらに多数の訪問者が訪れる地域に立地する横浜みなとみらいホールは、単なるコンサートやワークショップの開催に留まらない多種多様なニーズに応える責任と、それを果たせるだけの地力と独自性を有しています。

一例として、ホールオルガニストは、単に演奏するだけでなく、そのホールのオルガンについて深く理解し、利用者への説明・調整や長期的なメンテナンスや維持管理へのアドバイスなどのため、多岐にわたる専門的な知識やノウハウを有している必要があります。横浜はその歴史的な経緯もあり、多数のパイプオルガンが存在する稀有な土地柄ですが、ホールオルガニストに必要な事を統一的・継続的に学べる場はホールのほかにはありません。「ホールオルガニスト・インターン制度」では、長年の開催によって指導・研修のノウハウが蓄積され、そこで研鑽を積んだインターンシップ修了生が各地で活躍することで幅広いネットワークが構築されるという他にはない環境を確立しています。

同様に「みなとみらいSuper Big Band 育成事業」も、日本で最も早くジャズが受容された土地であり、現在も多くジャズハウスやジャズのイベントが開催されているという歴史を背景に、中高生に学校という枠とは異なる、多様なメンバーによる演奏の機会を提供し、それを継続していくことで、年代的にも縦横に広がりを持った場を生み出しています。

「金の卵を見つけました」や「横浜みなとみらいホール 社会包摂事業」、「横浜みなとみらいホール アウトリーチ事業」では、地域のアーティストによるNPOや専門知識を有する組織・学校などと連携を継続的に行い、音楽ホールだけでは企画・実現できない取り組みにも積極的に参加しています。

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

今回の事業では、地域の中核的音楽ホールとして、その機能を最大限発揮するための「演奏者」「スタッフ」の育成と、年齢、性別、国籍、障がいのあるなしなどにかかわらず、すべての人に向けた音楽文化の提供の2つを主たる目的としました。

前者については、16年にわたって実施してきた「オルガニスト・インターン制度」を継続して、今回も1名を採用して、1年にわたって実際のコンサートやワークショップの現場で演奏者としてだけの役割ではない「ホールオルガニスト」としての研鑽を積んでもらうことができました。また、「金の卵を見つけました」では、音楽文化を支える次世代育成の観点から、アーティストが主導するNPOと連携し、才能ある青少年を対象としたコンチェルトソリストオーディションを実施し、未来の優れた演奏家となる可能性を秘めた子どもたちに最良の環境で演奏する機会を提供しました。

すべての人に向けた音楽文化の提供としては、「横浜みなとみらいホール アウトリーチ事業」では、市内の3つの学校で、ゴスペル・邦楽器・作詞作曲とバラエティに富んだ内容の体験ワークショップを実施し、ホールに来場しなくてもプロのアーティストの活動に接する場を創りだしました。「みなとみらい Super Big Band育成事業」は、過去5年間にわたって継続してきた中高生を対象とした企画ですが、彼らの自身の成長とともに、その活動を通じて、普段はホールへ足を運ぶことの無い層や、市域を超えた幅広い範囲に向けてホールの存在と活動をPRすることができました。「横浜みなとみらいホール 社会包摂事業」は、ホールが手掛けるソーシャルインクルージョン企画の中核として、障がいをお持ちの方が負担や気負いなく音楽文化にアクセスできるようにするためのノウハウやテクノロジーに触れられる場を外部の団体・組織等と協働しながら作るとともに、今後の企画に向けてそれらホールに導入・蓄積しました。

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

通年、かつ、継続した企画である「オルガニスト・インターン制度」と「みなとみらいSuper Big Band育成事業」については、過去の実施状況を踏まえた計画立案となっており、ほぼ予定通りでの実施となりました。2事業とも、年度当初の参加人員確定、調整的な期間を挟み、ルーティンなスケジュールへ移行していきました。わずかな変更点としては、みなとみらいSuper Big Bandにおいて、他団体との交流等が円滑に進んだこともあり、当初の想定より外部会場での演奏機会が増えるというプラスの変更がありました。他の事業も助成申請の時点で未確定だった部分も含め、基本的には当初想定計画に沿った実施となりました。

事業費に関しては、助成対象以外の事業の収支状況とのバランスのため施設の事業全体で支出の圧縮を心掛けたため支出総額が当初予算より減少となっています。ただし、支出の削減・効率化であり、事業の回数や質的な水準は、当初の計画に沿った規模となっています。

なお、「オルガニスト・インターン制度」で育成を行うホールオルガニストは、その業務を行うために必要な知識や技能が多岐にわたります。そして、それらを習得するためには、きちんとメンテナンスしているオルガン、メンタリティの部分まで含めて指導できる経験を持ったホールオルガニスト、実践の場として機能するために必要な稼働率のホールといった、ハード・ソフトが整っていることが必須となります。そして、そのような環境で一定期間継続して研鑽を積むことで、初めてホールオルガニストとしての実務に耐える人材になりうるということを、過去の15回以上のプログラムを通じて感じています。従って、1年間をかけて1名という枠での育成は、期間設定とコストとともに適切かつ必須のものとなっています。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

横浜みなとみらいホールは、人口370万人を越える横浜市の中心部に立地する唯一の2000名規模の音楽専門ホールです。そのため、地域の中核的な文化施設として、様々な方面からの多様なニーズに応えることが要請されています。

施設としては、館長に作曲家の池辺晋一郎が就き、そのアドバイザーのための企画委員会を設置して、事業全体の方針やラインナップに目配りするとともに、いくつかの事業に置いては直接の監修も受けています。また、関連する様々な組織・団体との強固で多層的なネットワークを構築し、主催公演・協力公演・貸館利用など様々な場面でそれを活用して、音楽ホールとしての機能を効果的に発揮しています。

さらに、現在のニーズの拡がりには、単に多様で質の高い芸術を鑑賞・体験する場としてだけでなく、近時に高まっている「だれもが文化芸術にアクセスできる」ことを可能とすることへの要請にも応えています。そのため、従来から取り組んでいた普及啓発の段階からさらに一歩進めて、社会的包摂を達成するための事業の充実と、その深化のためのスキルやノウハウの蓄積、音楽文化以外の組織等との協働連携の強化を続けています。

さらに設備的な側面では、開館から20年を超えて、建設当時には必要性の認識の薄かったバリアフリーやユニバーサルデザインの観点での要望が増加しています。これに応えるため、レセプションやチケットセンタースタッフなどを中心に、ホスピタリティの向上や小規模改修の実施、ホールwebサイトのアクセシビリティの方針に基づく更新などを行うとともに、今後に予定している1年10か月の大規模修繕に向けて、改修事項の洗い出しなどを行っています。

これらの施設としての方針・課題を、事業の企画レベルに落とし込みながら実施しています。メインホールである大ホールに設置されたパイプオルガン「ルーシー」は、「ホールの顔」であり、市民からのイメージの中心となっていると同時に、連携事業などを通じた地域との懸け橋の1つともなっています。開花以来開催している「オルガン・1ドルコンサート」をはじめとするオルガン企画を成立させるためには、ホールオルガニストの存在は不可欠です。また、市内に多数あるパイプオルガンを、地域の文化資源として積極的に活用し、賑わいづくりへとつなげるためにも、その役割を担うための人材の育成は継続的な課題となっています。「オルガニスト・インターン制度」で育成されたインターンシップ生は、ホール内での研修にとどまらず、施設外での活動も積極的に行える状況となっています。これは、ホールとして近隣のネットワークが形成されていることに加え、インターンシップで育成された人材が、他のホールや会場でも活躍可能な、需要のある存在となっていることを証明しています。

音楽文化における社会的包摂の実現のために企画制作した「横浜みなとみらいホール 社会包摂事業」で実施した「音と彼の動物園」「だれでもピアニスト だれでもアーティスト」などといった企画は、障がいや音楽的な経験の有無、年齢などに関わらず音楽文化に触れられる機会を提供するものとなっています。これらの事業は、音楽分野以外の知見やテクノロジーが不可欠であるため、それらを補うために東京芸術大学COI拠点をはじめとした、外部の専門組織やスタッフとの協働を進めました。ホールとしては、それらのノウハウをただ借り受けるのではなく、音楽専門ホールとして（また、公共ホールとしても）、どのように受け入れて協働していくことが効果的かについての情報を蓄積し、今後の企画実施に役立てるとともに、他施設での実施の際にも活用・提供ができるよう整理しています。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

地域最大の音楽専門施設である横浜みなとみらいホールに対しては、音楽文化を日常的に楽しむ層からは、幅広く質の高い鑑賞事業や、他では体験できない活動ができるワークショップなどへの強いニーズがあります。他方、公共ホールとしての性格上、地域の賑わいづくり・魅力づくりやインバウンドへの貢献、音楽文化に興味の薄い層や子ども・高齢者・障がい者をはじめとした幅広い層への取り組みも求められています。これらの要請に対応するため、助成事業をはじめとした企画を実施しました。

「金の卵見つけました」では、将来の音楽文化を支える演奏家を見出し、良質な環境で実践経験を積める場を提供するため、青少年を対象としたコンチェルトソリストオーディション問い形で企画を展開しています。かつ、その実施運営に際しては、国内の一流の演奏者が中核となっている地域のNPO法人である「ハマのJACK」との協働となっています。この企画を一緒に実施することによって、地域の人的資源を有効活用し、ネットワークを強化する契機となっています。また、オーディションを音響の良いホールで実施し、無料で公開することで、オーディション自体を鑑賞して楽しみ、オーディション合格者の公演への期待を高める等効果も生まれるようになり、実演者だけが関わる限られた層に向けた幾何ではなくなっています。

「横浜みなとみらいホール アウトリーチ事業」では、ホール中に留まらない企画として、市内の学校へプロのアーティストを派遣し、普段の学校の授業の中では体験できない音楽文化を体験するワークショップを開催しました。この企画では、アーティストの技術や知見に、子どもたちが普段過ごしている空間で触れることで、よりリラックスして活動に取り組むことができます。また、体験する内容も、ホールから一方的に提供するのではなく、子どもたちの性質や特性を一番把握している先生と検討を繰り返して決定するため、より効果的・印象的なプログラムとなっています。さらに、講師として派遣するアーティストは、育成効果を見込んで若手アーティストを積極的に起用したり、その後の学校とのネットワークの形成も視野に入れて近隣・地元在住のアーティストを選択するなど、「次」に繋がる人材選択を心掛けています。

「みなとみらいSuper Big Band育成事業」では、横浜という土地柄、様々な場面でジャズに触れる機会は多いものの、中学校・高校の部活動などでは、ジャズに取り組むことが難しい状況が前提としてあります。そのため、ジャズに興味も生まれても「演奏」という形で触れることへのハードルは高く、まして、ビッグバンドのような多人数での活動に参加することは、非常に限られたものとなっています。そのような潜在的なニーズを掘り起こし、次世代の音楽文化を担う人材の育成の場となっているのが、公募で集まった中高生メンバーによるビッグバンド「みなとみらいSuper Big Band」です。彼らの活動は、彼ら自身のニーズを満たすとともに、そのような場が身近にあるということを広め、ジャズに触れたいという子ども達の潜在的なニーズにも応えることとなります。また、クラシックの企画が多数を占めるホールにとって、中高生という年代は、日常的に来館する顧客層とは乖離してしまっている部分がありますが、

「みなとみらいSuper Big Band」の練習活動やコンサートへの来場を通じて、その友人・知人関係も含めた同年代へのホールアピールとなり、来場者のすそ野の拡大にも寄与しています。また、中高生という枠組みで、年度を超えて実施している（今年6年目）ため、毎年卒業・引退と新入が繰り返されることで人材の循環がなされ、外にも広がりながら継続しています。

## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

横浜みなとみらいホールの事業実施体制における持続的な発展性としては、ホール外の組織・団体との連携・協働を通じたネットワークの構築と、そこからの情報・ノウハウの蓄積が挙げられます。これらの組織等とのつながりは、単独の事業の実施だけに留まらず、ホールのブランド力の向上や新規の事業の立案や貸館運営の円滑化にも役立っています。

「金の卵見つけました」では、地域で活動する「NPO法人ハマのJACK」との連携が中心となります。地域社会に根ざしたクラシック音楽の普及活動を目指す彼らとの協働は、より幅広い層に対して、音楽文化とホールへの興味を喚起してくれています。

「横浜みなとみらいホール アウトリーチ事業」では、教員の方たちとの情報交換が有効に働いています。学校で子どもたちに日常的に接し、地区ごとや年代ごとに差異もある個々の特性を把握している教員の知識や経験は、アウトリーチの実施に留まらず、次世代育成事業の企画立案にフィードできるものとなっています。

「みなとみらいSuper Big Band育成事業」においては、定例の活動として他都市への遠征（イベント参加）を行っていますが、その受入先の都市の担当と一緒に参加する団体との交流を通じて、ビッグバンド運営やイベント参加・開催時のノウハウや知見を収集・蓄積できています。また、参加メンバー同士の交流も密になっており、そこをきっかけとした活動なども充実してきています。

「横浜みなとみらいホール 社会包摂事業」においては、「だれでも音楽文化を享有できる」ために効果を発揮する専門的な知識やノウハウ、テクノロジーを、様々な形で提供してくれる組織等と協働しています。協働においては、それらの組織等も有していない、ホールのような空間や公共施設という縛りの中で企画を展開するにあたってのノウハウをホールから提供したり、一緒に検討・構築しており、片務的な状況ではないことで、より深化した繋がりとなっています。